

令和7年度 宇都宮市食育推進会議 議事録

■ 日 時 令和7年9月26日（金）午後3時00分から午後4時00分

■ 場 所 宇都宮市役所 14A会議室

■ 出席者

1 委 員（15名）

舟本肇委員，渡辺道仁委員，大森玲子委員，藤田雅一委員，北條雅人委員，久米博子委員，石戸奈緒美委員，甲賀成美委員，鈴木桂子委員，佐藤要委員，増淵祥子委員，高橋友久委員，笹沼佳子委員，坂本理江子委員，杉本由紀子委員（委員名簿順）

※ 欠席委員（5名）：遠藤秀樹委員，澤村佳子委員，中野智之委員，小関裕之委員，矢田部匡広委員

2 事務局（12名）

【保健福祉部】 部長，保健所長，次長（保健衛生担当），

【健康増進課】 課長，保健センター所長，課長補佐，企画グループ係長，健康づくりグループ係長，職員9名

■ 公開・非公開の別 公開

■ 傍聴者・記者 0名

■ 会議経過

1 開 会

- ・ 委員の過半数が出席しており，本会議は有効であることを報告
- ・ 「附属機関等の会議の公開に関する要領」に基づき，会議公開について説明，委員了承
- ・ 所定の手続による事前の周知の結果，傍聴希望者及び記者は0名

2 委員紹介【省略】

3 副会長選出

- ・ 前副会長が退任したことから，宇都宮市食育推進会議規則に基づき，委員の互選により，副会長に第1号委員 舟本肇委員を選出
- ・ 会長及び副会長よりあいさつ

4 あいさつ【省略】

5 議事

- (1) 第4次宇都宮市食育推進計画における重点事業の取組状況等について
- (2) 食育に関する意識調査について

6 委員からの主な意見・質問等（要旨）

(1) 協議事項 1

第4次宇都宮市食育推進計画における重点事業の取組状況等について

◎ 会長

新しく就任された委員に意見を伺いたい。

● 委員

本市の郷土料理を取り入れた取組や、地産地消の取組を盛り込みながら、食育を推進していることはすばらしい。自身も食育の理解をより深めていきたい。

◎ 会長

その他、委員の皆様いかがでしょうか。

● 委員

基本施策1に、「自然に健康になれる食環境づくりの推進」を設定しているが、「自然に、無意識に」というところが、抽象的であり、不安があったが、スーパーやコンビニ等において、音楽や野菜増しPOPの掲示などにより、自然に健康になれる食環境づくりの推進のために大変努力しているところはとても評価できる。

基本施策7「郷土料理や伝統料理等、優れた食文化の継承につながる食育の推進」について、令和6年度の伝統料理講座開催回数は、年間5回となっており、1回あたりの参加者数が調理室の関係もあり、20名弱となっている。今年度の目標値は、開催回数が年4回であり、この回数で継承できるのか、また、教える側も高齢化しており、危機感を持って取り組む必要があるのではないかと考えている。今後は、若い年代の方々に対する郷土料理、伝統料理の調理実習のほか、歴史に関することも伝えられるとよい。

◎ 会長

子どもの食育の観点ではいかがか。

● 委員

小学校においては、郷土料理や伝統料理の調理実習を行うことは難しいが、伝統文化という点では、料理だけではなく、例えば、黄ぶななど、宇都宮市独自の歴史等について、5、6年生対象に行っている学校も多い。また、学校給食では、七夕給食など行事食の献立も取り入れている。さらに、学校だけでは実施が難しいものについては、博物館や宇都宮大学と連携した学びの場を設定したり、地域の農家の方に協力してもらい、とうもろこしの皮むきや、収穫した食材を使用した給食の提供など、様々な方々の協力を得ながら、食育の推進に取り組んでいる。

● 委員

学校においては、大変努力されていることは承知しており、学校ばかりに負担をかけず、地域、団体、行政等が連携しながら推進していくことが重要だと認識している。

若い年代の方が、食に関して関心がないのであれば、「健康志向」などに関心がある場合は、それに絡めて、取り組んでいけるとよいのではないかと考える。

(2) 協議事項 2

食育に関する意識調査について

● 委員

アンケートの追加項目に、減塩に関する項目があるが、とても良いと思う。減塩については、高齢の方の認知度はあると思うが、高校生の息子は、野菜摂取についての認知度はあるが、減塩については、意識が低い。学校のテストなど、ストレスがかかるときは、特に塩分が濃い食べ物を摂りたがるため、親としては、頑張ってもらいたいのであけてしまう。減塩に関する項目を追加し、若い年代から意識を高めてもらうようなアンケートになっていると良い。

● 委員

食育に関する意識調査について、前回の調査時より対象者数が減っているが、人口減少により、減らしているのか伺いたい。

また、令和2年度の食育に関する意識調査と令和5年度の市民健康等意識調査の回収率を比較すると減少しているため、設問数を精査するなど、回収率を上げる工夫が必要なのではないかと感じた。回収率を上げ、その後の様々な取組に反映できるよう検討していただきたい。

○ 事務局

対象者については、人口減少により減らしているものではなく、また、設問数については、成果指標の評価に必要な項目や、国の調査内容をもとにした項目としているため、基本的には前回調査と同様の項目を設定している。

補足であるが、対象者数については、前回より減らしているが、統計学上、今回の対象者数で問題ないことを確認している。

● 委員

幼児・小学生の保護者の調査方法は、園や学校を通じた配布・回収となっているが、Web回答を併用しない理由はあるのか。

○ 事務局

保護者を対象とした他の調査において、Web回答のみにしたところ、回収率が非常に低くなってしまったという事案があったため、Web回答は採用しないと整理した。

◎ 会長

学校現場においては、「さくら連絡網」があるが、それを通して保護者にお伝えし、回答の有無を確認するなど、そういったツールを活用することは可能か。そうになると、現場の負担はいかがか。

● 委員

確かに、保護者の中にはWebの方が回答しやすい方もいると思われるが、Web回答では、なかなか回収率が上がらない可能性がある。学校のアンケート調査でも回答率が上がら

ず、何度も連絡することで何とか回収率を上げている現状である。

また、学校からの連絡は、紙ベースではなく、「さくら連絡網」を使用しているため、新しい連絡が次々と入ってくることで、アンケート調査が下に下がってしまう。改めてアンケートを探して回答する方は限られてくるのではないかと思う。どちらにしても、回答してもらおう工夫が必要だと考える。

◎ 会長

幼稚園や保育園の現場ではいかがか。

● 委員

保護者の方々は、Webに慣れていていると思われるが、過去の調査実績をみると、幼児・小学生の保護者は、学校を通じた配布・回収の回収率が高く、また、中・高校生では、令和5年度はWeb回答のみの調査方法で、回答率が67.9%と前回より下がっているため、紙の方が回収率が高いのではないかと感じている。

● 委員

園では、Web回答だと回答の有無を把握できないため、紙ベースの方が未回答者への協力のアナウンスがしやすく、回収率が上がるのではないかと思う。

◎ 会長

ただいまの意見を反映し、事務局で検討をお願いします。

7 閉会